

UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)



ダイバシティ 800MHz帯 PLLワイヤレスチューナー付

ワイヤレスアンプ

CDプレーヤー付

WA-862CDA

このたびはワイヤレスアンプをお買い上げいただき誠にありがとうございました。

CDプレーヤー部の使用上のご注意

CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますので、ご使用に際しては充分ご注意ください。

目次

安全上のご注意	1～4
特長	5
各部の名称と説明	6～7
保護カバーについて/収納部ふたについて	8
使用電源について	9～10
ワイヤレスチューナー部の説明	11～14
別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法	15
操作のしかた	16～17
ハウリングとデッドポイントについて	17
CDプレーヤー部の説明	18～23
接続例	24
点検方法	25～26
著作権法について	26
定格	27
外観寸法図	28
連絡先のご案内	28
保証書	28

安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグを
コンセント
から抜け

分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない / 濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)



定期点検を実施する

専門の業者(技術者)による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



専用ニカド蓄電池(WBT-2000)以外の蓄電池は使わない

万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。



この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない

こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。



この機器を水滴のかかる場所に置かない

中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かない

火災の原因となります。



電源コ - ドを傷つけない

電源コ - ドの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。



電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。



電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。定期的に電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。



乾電池は、充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。



乾電池のかわりに充電式電池は使わない

万一、内部が破損していた場合、発火の原因になります。



屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない

落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。



表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない

事故や火災・感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない

場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があり、事故の原因となることがあります。





注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

水・湿気・湯気・ほこり・油成分(油煙/油粒)などの多い場所で使用しない 火災・感電・故障・破損の原因となることがあります。	
不安定な場所に置かない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
重量に耐える場所に設置をする 落下や転倒などでけがや破損の原因となります。	
電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	
異常に温度が高くなる場所に放置しない 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。	
長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く 火災の原因となることがあります。	プラグをコンセントから抜く
お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因となることがあります。	プラグをコンセントから抜く
電池は極性を正しく挿入する 電池を機器内に挿入する場合、極性表示に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	
指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	
電池は、金属性の物と一緒に携帯、保管しない 電池は、金属性のボールペン、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。	
電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない 電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。	
長期間使用しない、交流100Vで使用のときは電池を取り出しておく 電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。	
電源を入れる前には音量を最小にする 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。	
樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない、 また、タバコなどの火を近づけない 部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。	
長時間音が歪んだ状態で使わない スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。	
濡れた手で、電源コードを抜き差ししない 感電の原因となります。	
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。	
移動するときは、コード類を傷つけない 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。	プラグをコンセントから抜く
保護カバーを開けたまま使用しない 操作時以外は保護カバーを開けたまま使用しないでください。転倒などでけがや破損の原因となります。	



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

この機器に乗ったり腰掛けたりしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



CD挿入口に異物を入れない

火災や感電の原因となることがあります。



廃棄は専門業者に依頼する

燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。



オ・ディオ機器、外部スピ・カ・等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。



設置・使用上のご注意

- 本機の上面、側面、及び後面に10cm以上の空間を確保して使用してください。
- 本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。
- 使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
- 本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。
高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器など。

電源について

- 電源スイッチを「切」にただけでは、電源は遮断されません。
電源を遮断するときは、つぎのようにご対応ください。
電源プラグをコンセントから抜いてください。
(機器は、容易に遮断の操作ができるようコンセントの近くに設置してください)
乾電池を取り外してください。
ニカド蓄電池のコネクターを本体の接続コネクターから抜いてください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など

本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害

本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害

本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害

お願い

●本機を長期間お使いの場合

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

- 外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記 ~ の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されまし
たら直ちに電源を切り(使用中止)販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。
特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

煙りが出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。 電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。 本機に触れるとビリビリと電気を感ずる。 電源を入れても音が出てこない、その他の異常・故障がある。

特 長

- 高音質、高出力
 - ・大口径ウーハーと高音域ツイーターを搭載した2ウェイスピーカーシステムは明快な音質で音声、音楽をフレッシュサウンドで奏でます。
- マイク4本(最大)同時使用可能
 - ・3チャンネルのワイヤレスマイクと有線マイク1本が同時使用でき、予備入力端子とのミキシングも可能です。(別売のワイヤレスチューナーユニット2台を増設の場合)
- シンセサイザー方式チューナー採用
 - ・チューナーは周波数安定度の高いシンセサイザー方式を採用し、13チャンネルの中から任意のチャンネルを選択でき混信のトラブルがなくご使用になれます。
- ダイバシティ方式で安定受信
 - ・ダイバシティは音切れ、音質劣化を起こすデッドポイント現象を解決し、安定した良好な受信が行えます。
- 3電源方式のポータブルタイプ
 - ・電源はAC100Vと乾電池(単一形)8本、ニカド蓄電池を使用できます。乾電池は交換が簡単にできるカートリッジ式を採用しています。
- 保護カバーで様々なトラブルを防止
 - ・操作部と各種プレーヤー部はクリアタイプの保護カバーでしっかりガード。トラブルを気にせず使用できる安心設計です。
- 多機能CDプレーヤー付
 - ・CDプレーヤーは前後曲の選択、早送り/早戻しがワンタッチでできるスキップ/サーチ、演奏曲と曲順を自由に変えられるプログラム、そして指定した部分を繰り返し聴けるA-Bリピート機能付です。また、再生速度を±15段階で変化させることができます。

各部の名称と説明（後面）

11頁の「ワイヤレスチューナー部の説明」をご覧ください。

ハンドル

本機を移動させるときはハンドルを起こして持ち運んでください。移動時以外はハンドルをねかせておいてください。

音質調節つまみ

右まわりで高音が強調され、左まわりで減衰されます。中心のクリック位置が標準です。すべての入力に共通して音質調節がおこなわれます。

予備音量調節つまみ

収納部内のモノラル予備入力ピンジャックに接続された機器の音量が調節できます。

マイク音量調節つまみ

収納部内のマイク入力ジャックに接続されたマイクロホンの音量が調節できます。

CDプレーヤー部

18～23頁の「CDプレーヤー部の説明」をご覧ください。

ブランクパネル

（ユニット取付部）

別売のSDレコーダーユニットを組み込みます。組込まれるユニットの取扱説明書をご覧ください。

収納部ふた

8頁の「収納部ふたについて」の説明をご覧ください。

コード通し穴

AC電源コード、各種接続コード接続時はこの通し穴から引き出してください。

ふたストッパー

矢印()の方向に押さえますと、収納部ふたが開きます。

保護カバー

操作時は保護カバー下部を固定する位置まで持ち上げてください。保護カバー内部に埃や水滴の浸入を防ぐため、操作中以外は保護カバーを確実に閉めてご使用ください。8頁の「保護カバーについて」の説明をご覧ください。

電源スイッチ

ワイヤレスアンプの電源を「入」「切」するときに押します。

プロテクト表示灯

本機の増幅部の温度が上昇したとき、外部スピーカー出力が短絡したとき、電池が異常に消耗し動作限界に近づいたときに点灯します。また点灯時は本機の動作が停止します。25頁の「点検方法」をご覧ください。

充電表示灯

別売ニカド蓄電池（VBT-2000）の充電中には緑色に点灯します。10頁の「別売ニカド蓄電池でご利用の場合」の説明をご覧ください。

電源表示灯

本機の電源が入ると緑色に点灯します。また電池でご利用のときは、電池が消耗すると赤色に点灯しますので、新しい電池と交換してください。電源を入れたとき一瞬赤色に点灯しますが異常ではありません。

各部の名称と説明（収納部）

乾電池収納部

本機を乾電池で使用する場合は、乾電池の入った乾電池ケースを入れてください。
(9頁の「乾電池でご使用の場合」をご覧ください。)

電池ケース

本機を乾電池で使用する場合は、このケースに単一乾電池(R20P/LR20)8本を極性表示に従って入れてください。
(9頁の「乾電池でご使用の場合」をご覧ください。)

蓄電池収納部

10頁の「別売ニカド蓄電池でご使用の場合」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー部

出荷時は、グループ/チャンネル番号B11に設定されています。グループ/チャンネル番号の変更をされる場合は12頁のチューナー部の「周波数設定のしかた」の項をご覧ください。また別売のワイヤレスチューナーユニットを増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

蓄電池接続コネクタ

別売ニカド蓄電池MBT-2000を接続してください。(10頁の「別売ニカド蓄電池でご使用の場合」をご覧ください。)

マイク入力ジャック

(-56dBV 600Ω 不平衡)
有線マイクのプラグを接続してください。

モノラル予備入力ピンジャック

(-22dBV 10kΩ 不平衡)
Dプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器の場合は両方のジャックに接続、モノラル機器の場合はいずれかのジャックに接続してください。

ライン出力ジャック

(0dBV 1kΩ 不平衡)
カセットデッキなどを接続してください。

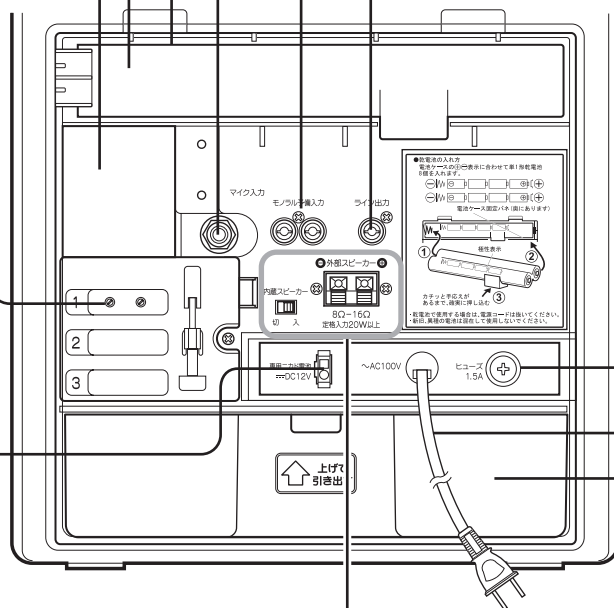
ヒューズホルダー

ヒューズを取り換える場合は、必ず規定のヒューズと交換してください。

警告 決められたヒューズを使う。
規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

AC電源コード

AC100Vコンセントに接続してください。収納部ふたの穴からコードを引き出してください。
(「~AC100V」の表示は、電源の種類と電圧を表わす表示です。)



外部スピーカー接続端子

外部スピーカーを接続してください。スピーカー接続コードを下图の要領で接続してください。

内蔵スピーカー切換スイッチ

内蔵スピーカーを鳴らすときは「入」側でご使用ください。外部スピーカー接続時など内蔵スピーカーを鳴らさないときは「切」側にスイッチを切り換えてください。



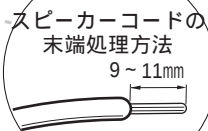
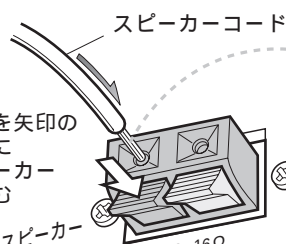
■ご注意

外部スピーカーは定格入力20W以上で、インピーダンスが8~16Ωのものを使用してください。
スピーカーコードは0.75mm²のより線使用時に10m以内、2.0mm²のより線使用時に20m以内の長さを目安に使用してください。

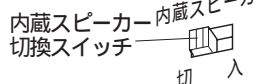
■適合電線:

0.75mm²~2.0mm²のより線

プッシュボタンを矢印の方向へいっばいに押しながらスピーカーコードを差し込む



注) 外部スピーカーを接続しないときに内蔵スピーカー切換スイッチを「切」側にしていると音が鳴りません。必ず切換スイッチをもとに戻してください。



8Ω~16Ω
定格入力20W以上

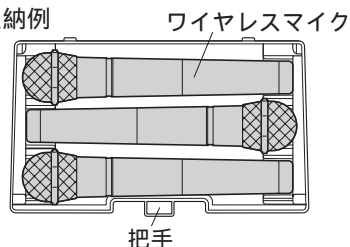
マイク収納ケース

マイク
収納ケース



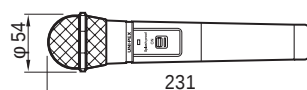
把手を持ち上げて引き出し、マイクロホンなどを収納してください。下图のように弊社製ワイヤレスマイク(WM-8400、またはWM-8030A)本体のみ3本を収納することができます。

■マイク収納例



マイク収納ケースの深さを超えて収納しない。また、ワイヤレスマイク収納時は、付属のソフトケースに入れず、マイク収納ケースが引き出せなくなり破損の原因となります。

■参考
WM-8400
寸法図

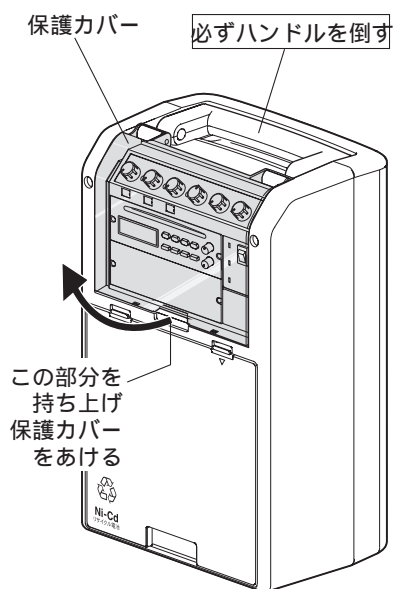


保護カバーについて

- 保護カバーは保護カバー内部に水滴や埃の浸入や使用中の誤操作などを防ぐことができます。使用中(操作中を除く)または保管時は必ず保護カバーを閉めてください。
- 保護カバーを開けるときはゆっくりと最上部の止まる位置まで開いてください。(図1参照)
- 保護カバーは万一の事故や破損防止のため強い力がかかったときに外れる構造になっています。もし保護カバーがはずれたときは2ヶ所の取付部を差し込み元どおりに取り付けてください。(図2参照)

図 1

■ 保護カバーの開け方

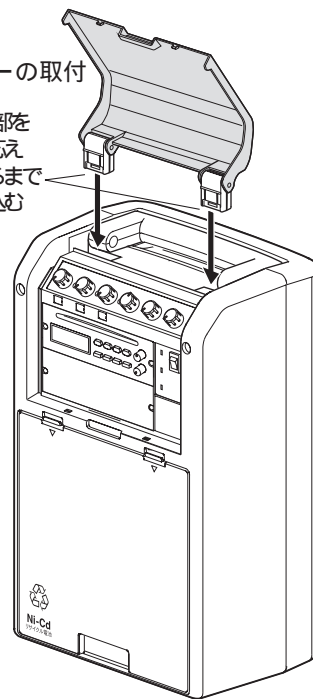


保護カバーが止まる位置までゆっくりと開ける

図 2

■ 保護カバーの取付

2ヶ所の取付部をカチッと手応えのあるところまで確実に差し込む

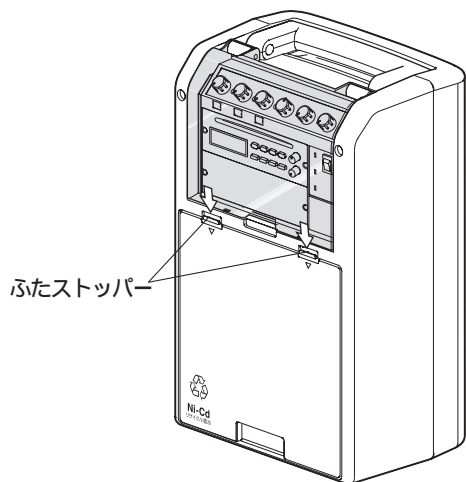


収納部ふたについて

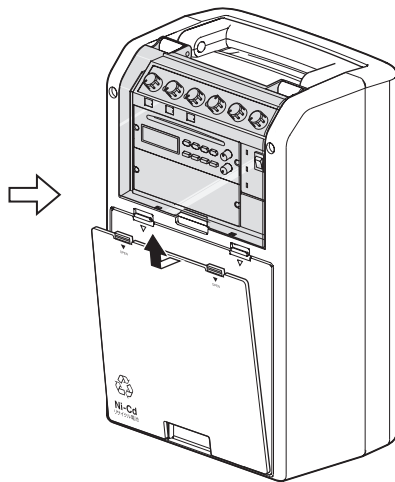
- 本機は接続や取付、設定などをおこなうときに次の要領で収納部ふたを取り外してください。
- 作業が済みましたら、必ず収納部ふたを確実に閉めてください。(図3参照)

図 3

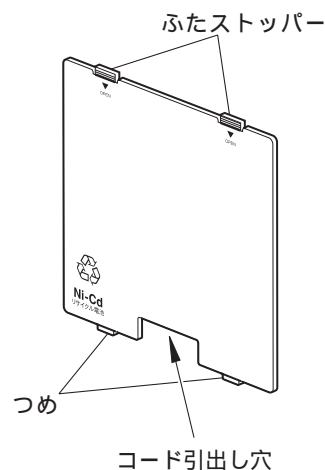
ふたストッパーを下向きに押さえ、手前に引きますとふたが開きます。



ふたストッパーを持ち上げ保護カバーをはずす



収納部下部の穴にふたのつめを差し込みふたを閉める



使用電源について

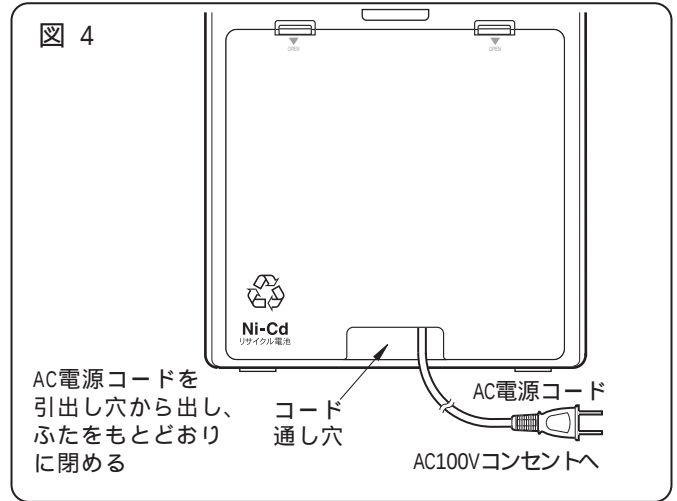
- 本機はAC100V、単一乾電池(R20P/LR20)、ニカド蓄電池(WBT-2000)の3種類の電源が使用できます。次の使用される電源の説明に従ってご使用ください。
- 8頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

収納部ふたをはずす

- 8頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

AC電源でご使用の場合

1. AC電源コードを取り出しACコンセントに差し込んでください。
2. AC電源コードを下部のコード引出し穴から出して、もとどおりにふたを閉めてください。8頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。(図4参照)



乾電池でご使用の場合

(単一乾電池R20P/LR20を8本ご準備ください)

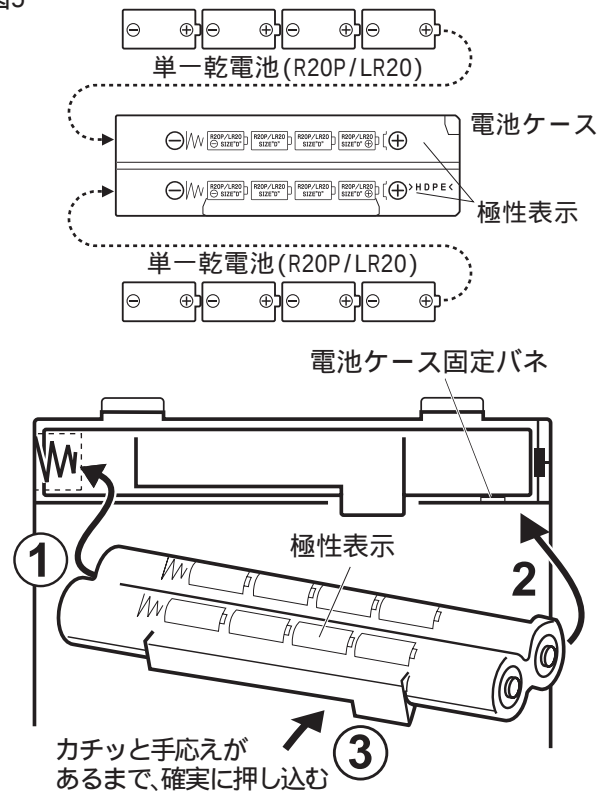
⚠ 警告 作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

1. 電池ケースの極性表示に従って、電池ケースに単一乾電池(R20P/LR20)8本を入れてください。(図5参照)
 2. 電池ケースを乾電池収納部に左端部から挿入してください。(図5参照)
 3. もとどおりに収納部ふたを閉めてください。8頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。
- 乾電池を内蔵している場合でもACコンセントに電源プラグを差込みますとAC100Vで動作します。
またAC100Vコンセントに差込まない場合は自動的に内蔵乾電池(DC電源)で動作します。
 - 電源スイッチを切ったときは、電源表示灯が赤色に点灯しながら消えますが異常ではありません。
 - できるだけアルカリ乾電池をご使用ください。

ご注意..

- 本機に乾電池が入っているときは乾電池の飛び出しなどを防ぐために、必ずふたを閉めてください。
- 乾電池を交換するときは必ず全部新品に交換してください。乾電池は必ず同じ種類のものをご使用ください。また乾電池の極性は+ - を間違えないようご注意ください。
- 長時間使用しない場合は乾電池を取り出しておいてください。乾電池をそのまま入れておきますと乾電池の液もれで本機が使用不能になる恐れがあります。

図5



乾電池の廃棄について

- マンガン乾電池、アルカリ乾電池は一般の不燃ごみとして捨ててもよいことになっています。自治体の条例などの定めがある場合には、その条例に従って廃棄してください。



警告

作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

別売ニカド蓄電池(WBT-2000)でご使用の場合

(別売ニカド蓄電池WBT-2000をご準備ください)

蓄電池の取付のしかた



このマークはニカド電池のリサイクルマークです。ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

1. ニカド蓄電池を収納部の左上部の蓄電池収納部に蓄電池取付金具と取付ねじを使用し固定してください。(図6参照)
2. ニカド蓄電池のコネクターを本機の蓄電池接続コネクターに接続してください。コネクターは方向を合わせ、抜け止めのつめが完全にロックするまで差し込んでください。接続コードはチューナーカバー側面にある蓄電池コード留部に引っかけてください。(図6、7参照)

お求めいただいたニカド蓄電池(WBT-2000)は初期状態では充電されていません。下記の説明に従って充電をしてください。

図 6

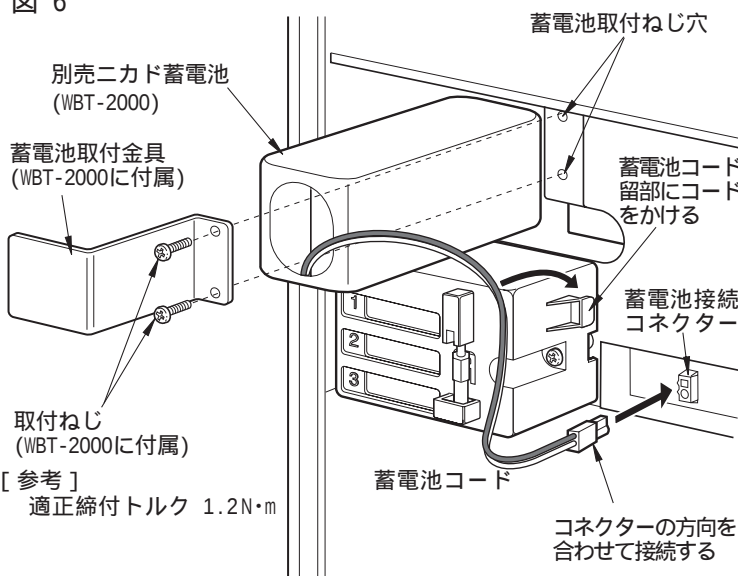
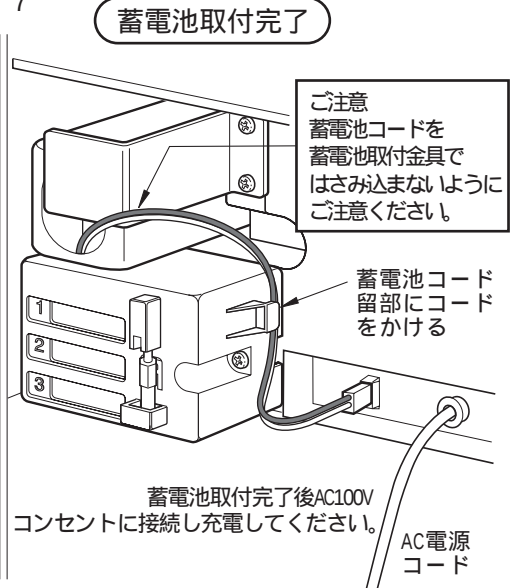


図 7

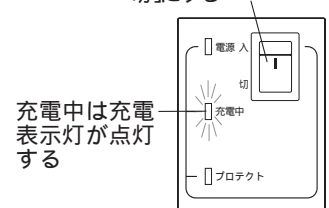


ニカド蓄電池の充電のしかた

1. 本機のAC電源プラグをACコンセントに差し込んでください。充電が開始され充電表示灯が緑色に点灯します(図8参照)
 ご注意... 充電中は電源スイッチを入れないでください。電源スイッチを入れますと、本機は動作状態になり充電ができません。
2. 約10時間(常温時)で充電が完了します。充電が完了しても充電表示灯は点灯状態のままです。AC電源プラグをACコンセントから抜き取ってください。

図 8

充電中は電源スイッチを「切」にする



電池寿命の目安

品 番	電池種類	アルカリ乾電池	ニカド蓄電池
WA-862CDA		約8時間	約 3 時間

- 上記の電池寿命は当社の試験条件(拡声6W トーンバースト波、ワイヤレスチューナー1ch使用時)で連続使用した場合の値です。大音量でCD再生など、ご使用の条件によっては著しく短くなることがありますのでご注意ください。また、電源表示ランプが緑色に点灯していても出力により音が途切れることがあります。このとき乾電池使用の場合は早めの交換を、ニカド蓄電池使用の場合は直ちに充電されることをお願いします。

ワイヤレスチューナー部の説明

(各部の名称と説明)

ワイヤレスチューナー部

本機の収納部にワイヤレスチューナー1台が内蔵されています。また別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)を2台まで増設することができます。増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

チャンネル設定スイッチ

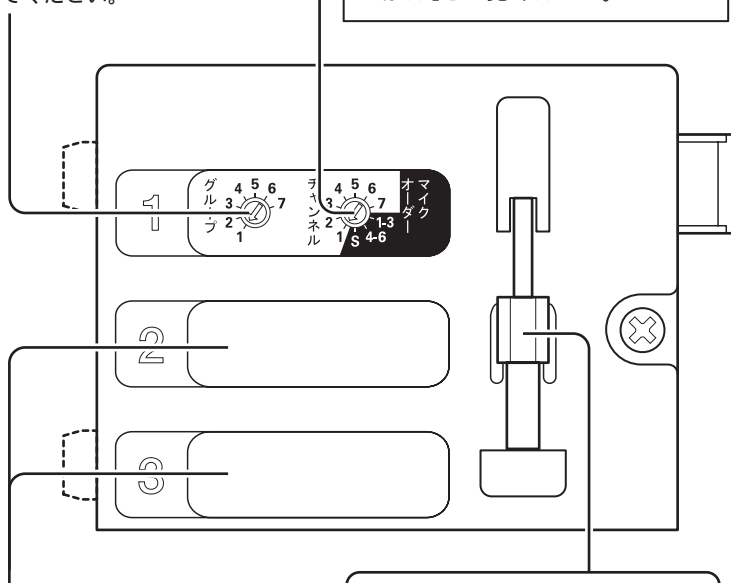
使用するワイヤレスマイクのチャンネル番号と同じ数字に設定してください。

グループ設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのグループ番号と同じ数字に設定してください。

出荷時は「B11」に設定

出荷時は、グループ/チャンネル番号「B11」に設定されています。グループ/チャンネル番号の変更をされる場合は12頁の「周波数設定のしかた」をご覧ください。

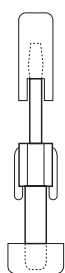


ワイヤレスチューナーユニット取付部(2/3)

別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)を増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー設定用ドライバー

12頁の「周波数設定のしかた」をご覧ください。



ドライバーを引き上げて取りはずす

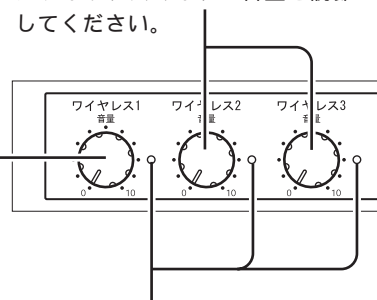
ワイヤレスマイク1音量調節つまみ

ワイヤレスマイクの音量を調節してください。

ワイヤレスマイク2/3

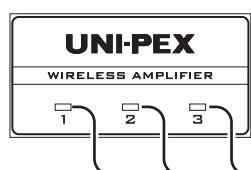
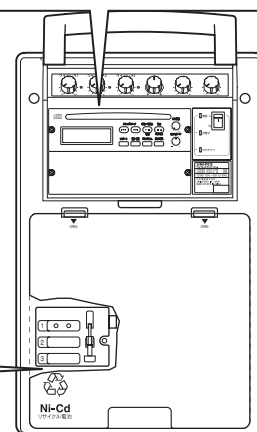
音量調節つまみ

別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)増設時はワイヤレスマイクの音量を調節してください。



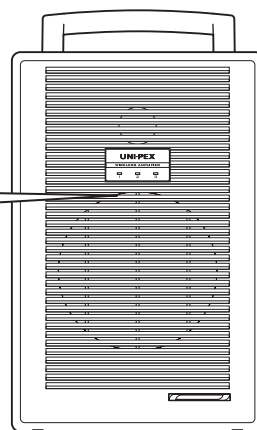
アンテナ受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯します。赤色で早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。(ワイヤレス2、3は別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)増設時に上記と同様に点灯します。)



アンテナ受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯します。赤色で早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。(ワイヤレス2、3は別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)増設時に上記と同様に点灯します。)



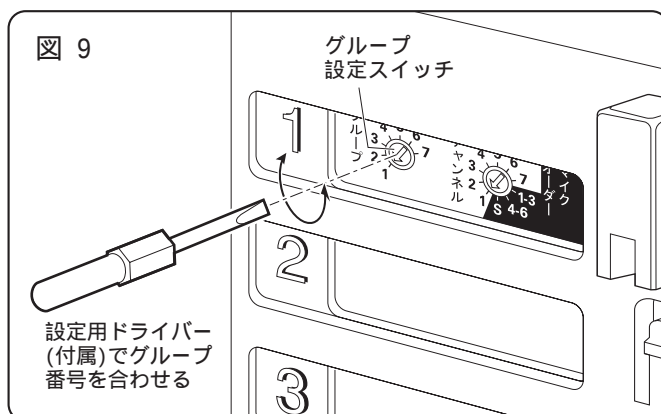
周波数設定のしかた

- 本機は出荷時に、ワイヤレスチューナー部のグループ / チャンネル番号を「B11」に設定しています。
周波数設定を切り換える場合は、付属の設定用ドライバーを使用し、次の要領でおこなってください。

(図9/10参照)

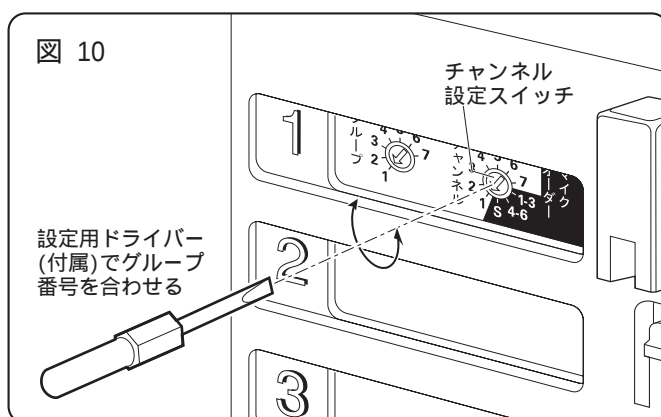
1. グループ番号を設定する

グループ設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号に合わせます。(図 9参照)



2. チャンネル番号を設定する

次にチャンネル設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(図10参照)



■ ご注意

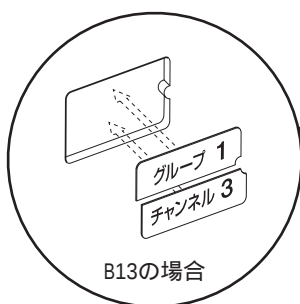
アンテナ受信表示灯が赤色に点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。

3. 収納部ふたを締め、チャンネル表示ラベルを貼る

- ・ 元どおりに収納部ふたを取り付けてください。
- ・ 設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベル(付属)をワイヤレスマイク音量調節つまみの下部に貼ってください。(図11参照)

図 11

設定したグループ、
チャンネルと
同じ表示ラベルを貼る



■ お願い

- 本機のワイヤレスチューナー部は収納部内にありますのでチャンネル表示ラベルを貼って頂き、外部より周波数設定を確認できるようにしてください。

ご注意

- 受信機とマイクは、同じ周波数(グループ及びチャンネル)に設定してください。
- 同時に使用するマイクは、全て同じグループにして、全て違うチャンネルに設定してください。(13頁の受信周波数表を参照)
- 1ヶ所で同時に使用できるチャンネル数は13頁の「グループ / チャンネル番号について」の項を参照してください。
- ワイヤレスアンプとワイヤレスマイクの距離は15m以内で使用してください。なお環境条件によっては短くなります。
- 同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。

800MHz帯ワイヤレスシステムについて

■ グループ / チャンネル番号について(下記文中のチャンネル数は本機を複数台使用の場合を含みます。)

- 同一場所で、マイクを同時に使用する場合は、1グループで1システム単独使用にしてください。
(同一場所で2グループ以上の同時使用はできません。)
- グループ1～4の中から1つ選んでシステムを組めば、最大6チャンネルまで使えます。
- グループ5は5チャンネル、グループ6は1チャンネル使えます。
- グループ7はグループ1～6の中から選定された周波数で構成されており、次の条件下で十分に注意して使用したときは、7チャンネルの組み合わせも可能となります。
- ワイヤレスマイク間を50cm以上離す。
- ワイヤレスマイクとワイヤレスアンプ本体を2m以上離す。
- 隣り合った部屋ではワイヤレスマイクを使用しない。
- 周波数一覧表にないグループ / チャンネル番号に設定すると、受信表示灯が点滅し受信できません。必ず周波数一覧表を見て設定してください。

受信周波数表→

	周波数 (MHz)	グループ / チャンネル番号						
		グループ1	グループ2	グループ3	グループ4	グループ5	グループ6	グループ7
1	806.125	B11						B71
2	806.250		B21					
3	806.375	B12						B72
4	806.500		B22					
5	806.625			B31				
6	806.750				B41			
7	806.875			B32				B73
8	807.000		B23					
9	807.125	B13						
10	807.250						B61	
11	807.375			B33				
12	807.500				B42			B74
13	807.625					B51		
14	807.750	B14						
15	807.875		B24					
16	808.000				B43			
17	808.125					B52		
18	808.250			B34				
19	808.375					B53		
20	808.500		B25					B75
21	808.625			B35				
22	808.750					B54		
23	808.875		B26					
24	809.000	B15						
25	809.125				B44			
26	809.250			B36				
27	809.375				B45			B76
28	809.500	B16						
29	809.625					B55		
30	809.750				B46			B77

■ チャンネル呼称について

図12 例

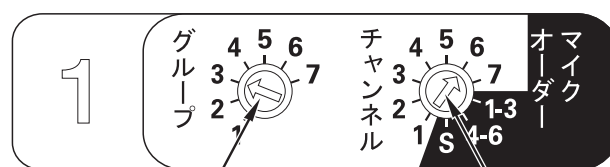
B 1 3
① ② ③

- ①800MHz帯を表わす
②グループ番号を表わす
③グループ内のチャンネル番号を表わす

■ グループ / チャンネル番号の設定例

図13

使用するワイヤレスマイクのグループ / チャンネル番号が「B36」の場合

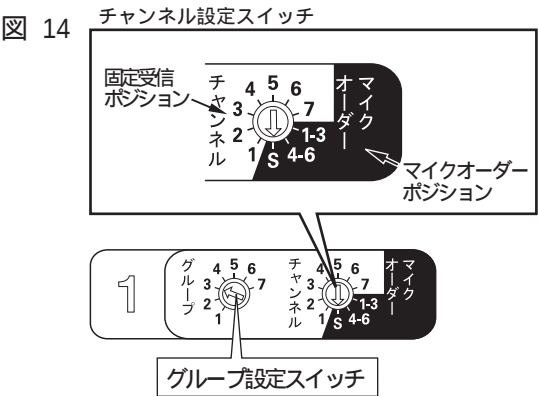


グループ設定スイッチの矢印を「3」の位置にまわす

チャンネル設定スイッチの矢印を「6」の位置にまわす

マイクオーダーについて

- 本機は1本のマイクに対して専用のチャンネルを固定して受信する設定と、任意の複数チャンネルを選択して受信する「マイクオーダー」の設定が可能です。



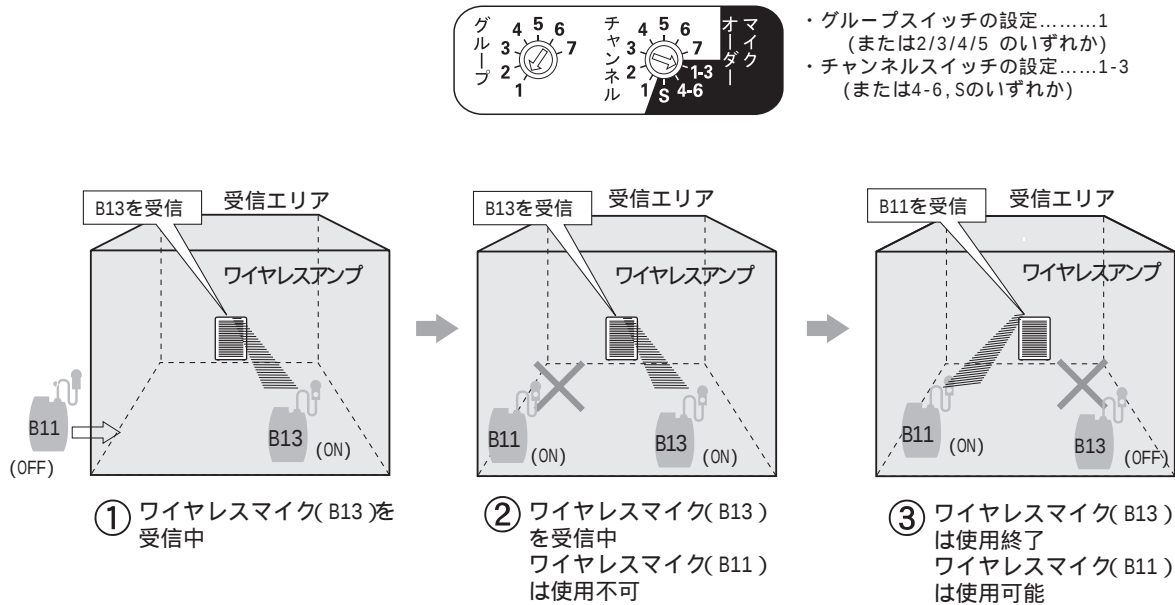
マイクオーダーのチャンネル組合せ表

グループ設定スイッチ チャンネル設定スイッチ		1	2	3	4	5
マイクオーダー ポジション	1-3	B11	B21	B31	B41	B51
		B12	B22	B32	B42	B52
		B13	B23	B33	B43	B53
	4-6	B14	B24	B34	B44	B54
		B15	B25	B35	B45	B55
		B16	B26	B36	B46	B55
	S	B11	B21	B31	B41	B51
		B12	B22	B32	B42	B52
		B13	B23	B33	B43	B53
		B14	B24	B34	B44	B54
		B15	B25	B35	B45	B54
		B16	B26	B36	B46	B55

「マイクオーダーポジション」とは？

- ・チャンネル設定スイッチをマイクオーダーポジションに設定しますと、グループ内の複数(3～6)チャンネルのワイヤレスマイクを受信することができます。(図14参照)
- ・最大6チャンネルの受信が可能です。最初に使用(電源スイッチ「ON」)したワイヤレスマイクのチャンネルを優先し、受信します。(図15参照)
- ・受信中マイクの使用が終わり(電源スイッチ「OFF」)次第、設定されたチャンネルのマイクが受信可能になります。(図15参照)
- ・受信可能なチャンネルの組み合わせは上記のマイクオーダーのチャンネル組合せ表をご覧ください。またグループの設定は「1、2、3、4、5」のいずれかに設定してください。「6」「7」には設定しないでください。

図 15 マイクオーダー運用例



別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法

- 本機は別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)を追加して2台組み込むことができます。取付は販売店または、最寄りのユニパックス営業所にご相談ください。

1. 収納部ふたを開ける

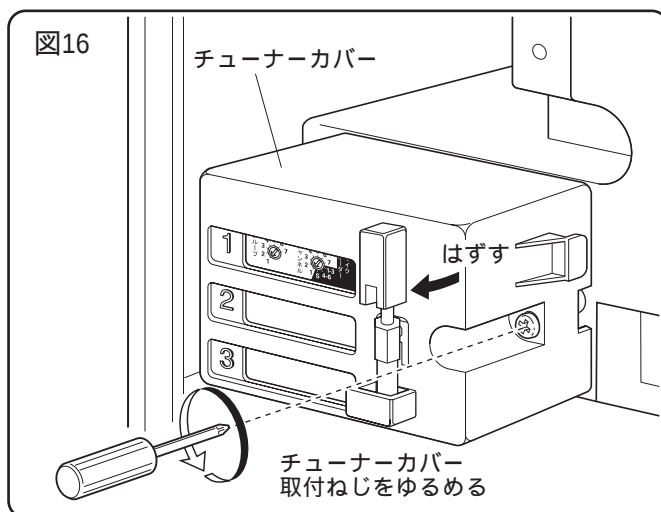
ふたストッパーを下向きに押さえ、収納部ふたを手前に開けてください。内部にAC電源コード、乾電池収納部、蓄電池収納部があります。8頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

2. チューナーカバーをはずす

本機のチューナーカバーの取付ねじをゆるめ、チューナーカバーを右図の矢印の方向に取りはずしてください。

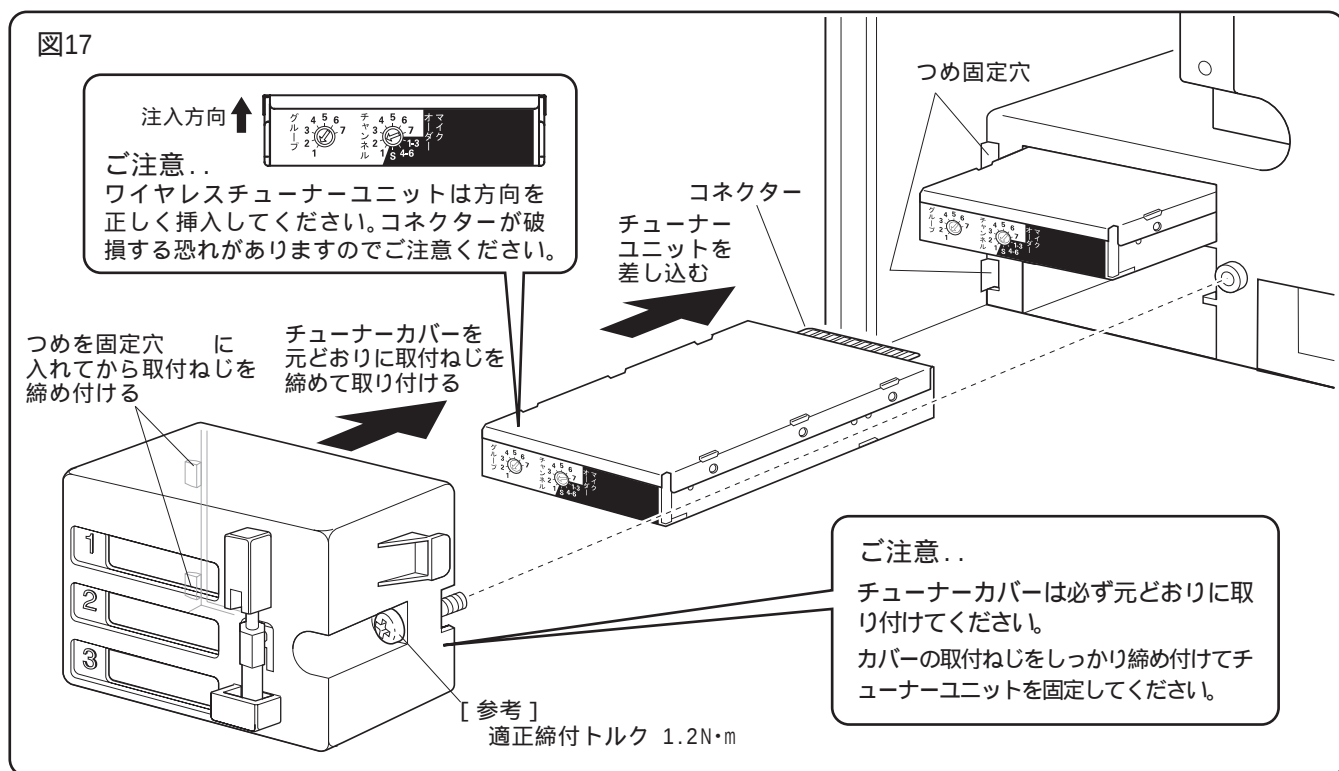
(図16参照)

⚠ 警告 ご使用中は、感電の恐れがありますので、取付作業をおこなわないでください。作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



3. ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

ワイヤレスチューナーユニットを本機のワイヤレスチューナーユニット挿入口に挿入しチューナーカバーを元どおりに取り付け、取付ねじを締め付けて固定してください。(図17参照)



4. 周波数を設定する

- ・ ワイヤレスチューナーユニットは出荷時にグループ/チャンネル番号を「B11」に設定しています。周波数設定を切り換える場合は、12頁の「周波数設定のしかた」またはワイヤレスチューナーユニットの取扱説明書をご覧ください。

5. 収納部ふたを締め、チャンネル表示ラベルを貼る

- ・ 元どおり収納部ふたを取り付けてください。
- ・ 設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベル(チューナーユニットに付属)を本機後面のワイヤレスマイク音量調節つまみの下部に貼ってください。12頁の「周波数設定のしかた」をご覧ください。

操作のしかた



注意

電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

ワイヤレスマイクの使い方

3. ワイヤレスマイクの

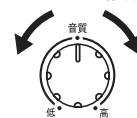
音量を調節する

ワイヤレスマイクの音量をワイヤレスマイク1音量調節つまみで調節してください。



4. 音質を調節する

ワイヤレスマイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

2. ワイヤレスマイクの

電源スイッチを「ON」にする

アンテナ受信表示灯が赤色から緑色の点灯に変わります。

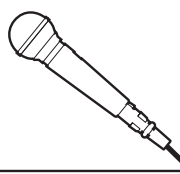


1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。アンテナ受信表示灯は赤色に点灯します。(別売のワイヤレスチューナーユニットDU-850A(またはDU-850)を増設していない箇所の受信表示灯は点灯しません。)

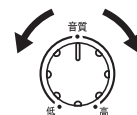
有線マイクの使い方

1. マイクプラグをマイク入力ジャックに接続する



4. 音質を調節する

マイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

3. マイクの音量を調節する

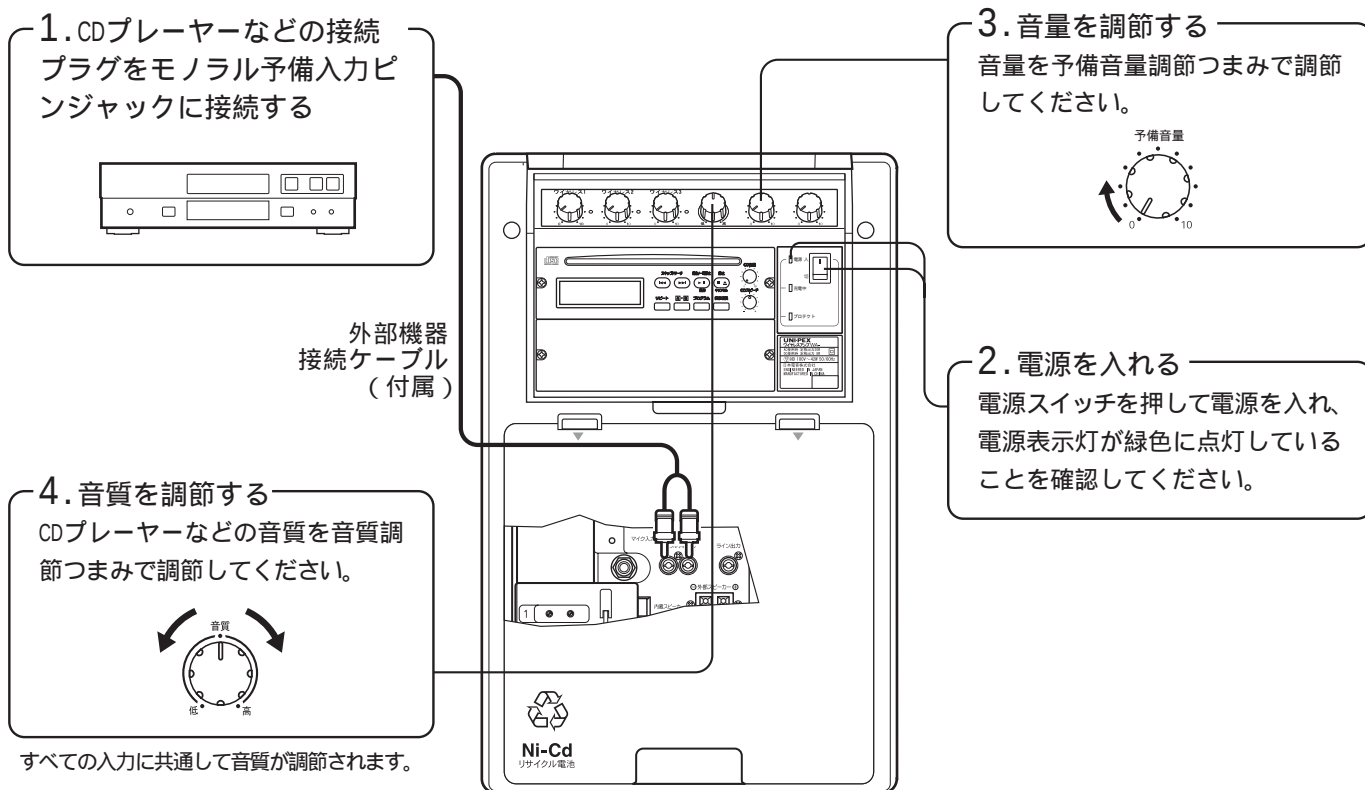
マイクの音量をマイク音量調節つまみで調節してください。



2. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

予備入力に接続されたCDプレーヤーなどの放送をするとき

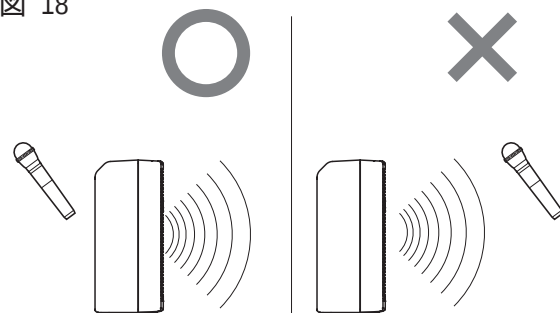


ご注意... AC電源コードやその他の接続コードが正しく接続されているか確認してください。
各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

ハウリングとデッドポイントについて

- ワイヤレスマイクや有線マイクをスピーカーの真正面近くで使用したり、音量を上げすぎたりするとキーンというハウリングが起きます。ハウリングが起きた場合はただちに音量を下げるかマイクの位置をスピーカーの方向からそらすと止まります。(図18参照)
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用していると突然音がでなくなる位置があります。これをデッドポイントといい、ワイヤレスマイクと本機内蔵アンテナの位置と壁、障害物などの位置関係により生ずるもので故障ではありません。本機の位置、あるいはワイヤレスマイクの位置を変えらるとなおります。

図 18



CDプレーヤー部の説明

(各部の名称と説明)

スキップ/サーチボタン(アップ)

曲 (TRACK) の送り選択をするときに押します。演奏中、このボタンを押し続けると(2秒以上)曲を早送りします。

スキップ/サーチボタン(ダウン)

曲 (TRACK) の戻り選択をするときに押します。演奏中、このボタンを押し続けると(2秒以上)曲を早戻しします。

再生/一時停止ボタン

CDの演奏を始めるときに押します。演奏を一時停止(ポーズ)するときはこのボタンを押します。

停止/取出しボタン

演奏を停止するときに押します。CDを取り出すときは停止中にこのボタンを押します。

取付ねじ

取り外すときには取っ手としてご利用ください。

ディスプレイ

操作または動作状態を表示します。下記説明をご覧ください。

CD挿入口

CDを挿入します。シングルCD(8cm CD)には対応していません。故障の原因になる場合がありますので使用しないでください。

リピートボタン

リピート演奏をするときに押します。押すたびに「1曲リピート」→「全曲リピート」→「解除」と切り替わります。

CD音量調節つまみ

CDの音量を調節するときに使用します。

スピード調節つまみ

CDの演奏スピードを調節するときに使用します。

時間表示切換ボタン

演奏時間の表示を切り換えるときに押します。押すたびに「曲の経過時間」→「曲の残り時間」→「総残り時間」と切り替わります。

プログラムボタン

プログラム演奏のプログラム内容を設定するときに押します。

A-Bリピートボタン

A-Bリピート演奏の開始点と終了点を設定するときに押します。

(ディスプレイ部の名称と説明)

ディスプレイのバックライトは停止状態、CD未挿入状態が15分継続すると消灯します。

再生表示

演奏状態のときに点灯。

演奏時間表示

演奏中の曲、またはCD全曲の経過時間及び残り時間の目安を表示。

トラック表示

演奏中の曲(トラック)番号を表示。

演奏時間表示(分:秒)

CDの経過または残り時間を表示。演奏スピード調節時は調節値(±15%)を表示。

演奏スピード調節表示

CDの演奏スピード調節中は「SPEED」と、調節状態「+」「-」を表示。調節値は演奏時間表示に点灯。

一時停止表示

一時停止状態のときに点灯。

リピート表示

リピート演奏のとき点灯。

🔄 : 1曲のみリピート

🔄 ALL : 全曲リピート演奏

A-Bリピート表示

A-Bリピート演奏のとき点灯。

プログラム表示

プログラム演奏のときに点灯。

演奏時間モード表示

時間表示切換ボタンを押しますと下表の順に表示が切り換わります。

演奏時間モード表示	演奏時間表示の内容
ELAPSED	演奏中の曲の経過時間
SINGLE REMAIN	演奏中の曲の残り時間
TOTAL REMAIN	CD全曲の残り時間

操作のしかた

再生のしかた



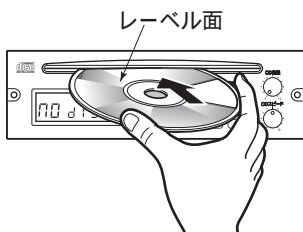
注意

電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

1. 電源を入れる

□ 本機の電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

2. CD挿入口にCDを入れる

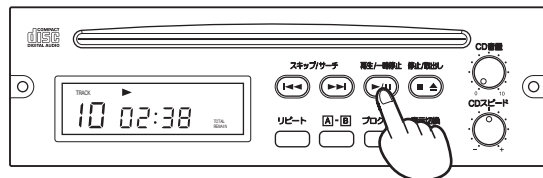


□ レーベル面を上にしてCDを入れると、トータルトラック及び全演奏時間を表示し停止状態になります。

すでにCDが入っているときは、“TRACK”が点灯しています。CDは入れられませんので、無理に入れしないでください。シングルCD(8cm CD)は使用できません。CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについては、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

3. 再生/一時停止ボタンを押す

□ 再生/一時停止ボタンを押すたびに、再生/一時停止を繰り返します。



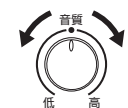
4. 音量を調節する

□ CD音量調節つまみを適当な位置に調節してください。



5. 音質を調節する

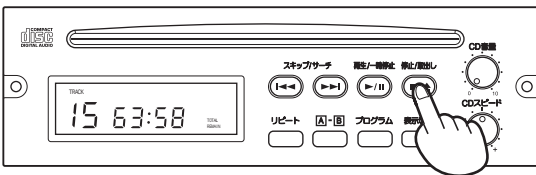
□ 音質を音質調節つまみで調節してください。



CDを取り出すには

停止/取出しボタンを押す

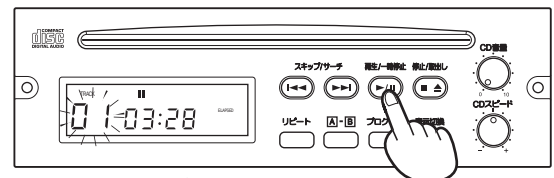
□ 停止中に停止/取出しボタンを押しますとCDが出てきます。演奏中の場合は停止/取出しボタンを押して演奏を停止してから、もう一度押してCDを取り出してください。



演奏を一時停止(ポーズ)するには

再生/一時停止ボタンを押す

□ 演奏中に再生/一時停止ボタンを押しますと演奏が止まります。再度押しますと再生します。



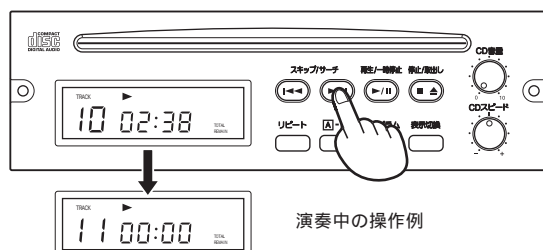
トラック表示が点滅

曲を選ぶには

● 次の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタンを押す

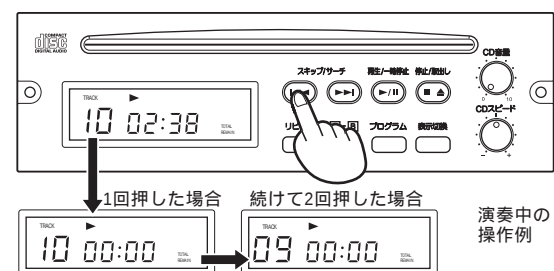
□ 演奏中にスキップ/サーチボタン[▶▶]を押すと次の曲の頭に移動し、演奏を開始します。停止中に押すと次の曲番号に表示が換わります。



● 前の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタンを押す

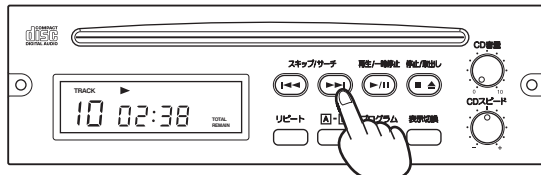
□ 演奏中にスキップ/サーチボタン[◀◀]を押すと演奏中の曲の頭に戻り、演奏を開始します。続けて2回押すと前の曲の頭に移動し、演奏を開始します。停止中に押すと前の曲番号に表示が換わります。



早送り / 早戻しするには

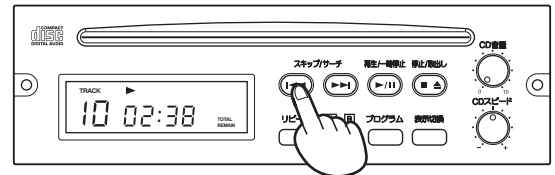
- 曲を早送りするには
スキップ/サーチボタンを押し続ける

□ 2秒以上押すと早送りし、離すとその位置から演奏を開始します。



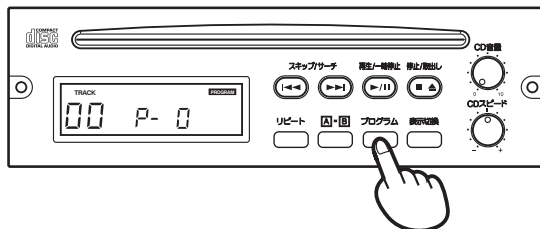
- 曲を早戻しするには
スキップ/サーチボタンを押し続ける

□ 2秒以上押すと早戻しをおこない、離すとその位置から演奏を開始します。

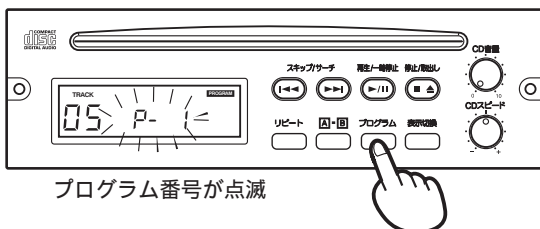


プログラム演奏をするには(演奏する曲と曲順を自由に設定する)

停止中にプログラムボタンを押す

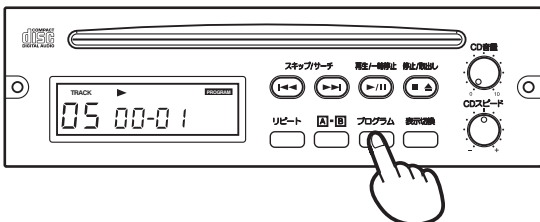


プログラムボタンを押し曲番を登録する
を繰り返し最大32曲まで登録できます。



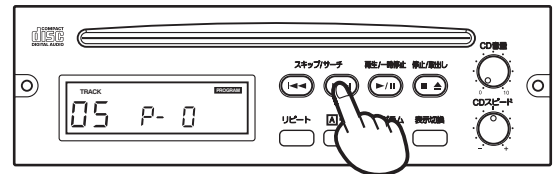
プログラム番号が点滅

- プログラム内容を確認するには
登録後、プログラムボタンを押す
上記の で登録後プログラムボタンを押すとプログラム内容を確認することができます。

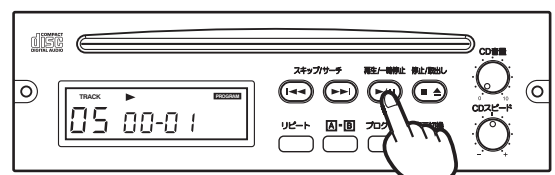


- プログラム内容を解除するには
プログラム演奏中にプログラムボタンを押す
□ ディスプレイの「PROGRAM」が消えて演奏している曲から通常の演奏になります。

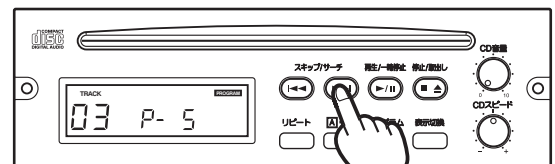
スキップサーチボタンを押しプログラムしたい曲番を表示させる。



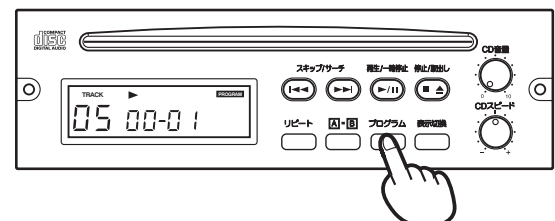
再生/一時停止ボタンを押す
プログラムした曲順で演奏します。



- プログラム内容を変更するには
登録後、プログラムボタンを押す
左記のプログラム内容を確認する要領で変更したいプログラム番号を選択します。
スキップサーチボタンを押し変更したい曲番を表示させる。



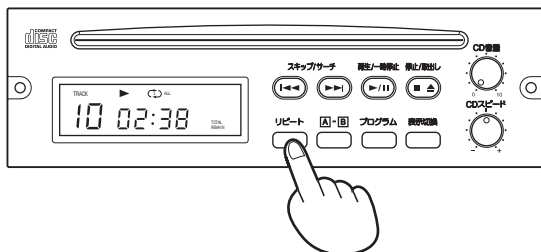
プログラムボタンを押し曲番を登録する



1曲または全曲を繰り返し聴くには(リピート演奏)

リピートボタンを押す

□ 押すたびに  →  ALL → 無表示の順に変わります。



	1曲リピート(今演奏している曲を繰り返し演奏します。)
	全曲リピート(CD全曲を繰り返し演奏します。)
	リピート解除(CDの最後の曲まで演奏します。)

リピート演奏について

- ・演奏中の曲または、CD全曲を繰り返し演奏します。

指定した部分を繰り返し聴くには(A-Bリピート演奏)

注意) リピート演奏中、またはプログラム演奏中にこの設定はできません。

● A-Bリピート演奏設定例

A-Bリピート演奏区間

4曲目の指定した部分を繰り返し演奏

CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
	A	B			

6曲目の頭から8曲目の途中までを繰り返し演奏

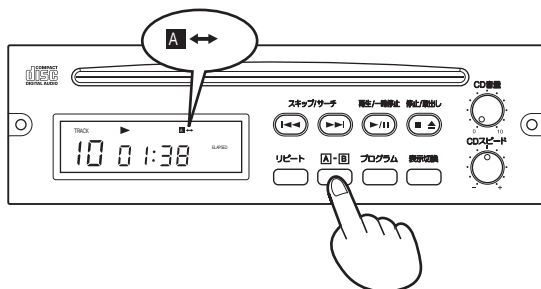
CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
			A		B

A-Bリピート演奏について

- ・演奏中のCDの指定した部分を繰り返し演奏します。(指定できる部分は連続する1区間のみ)

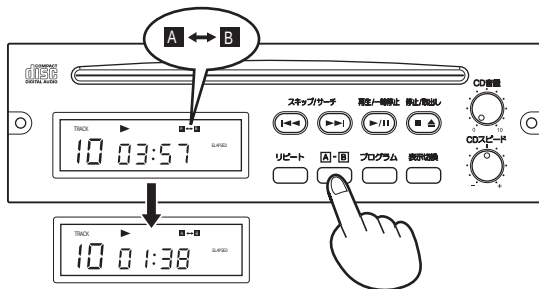
A-Bリピートボタンを押す
(開始点の設定)

演奏中、繰り返したい部分の開始点でA-Bリピートボタンを押します。



A-Bリピートボタンをもう一度押す
(終了点の設定)

繰り返したい部分の終わりでA-Bリピートボタンを押します。その後、その区間の繰り返し演奏が開始します。



A-Bリピート演奏が開始する

● A-Bリピート演奏を解除するには

A-Bリピート演奏中にA-Bリピートボタンを押す

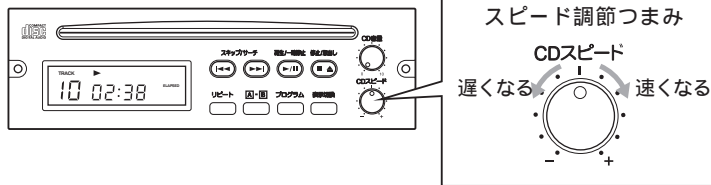
ディスプレイの「A-B」が消えてA-Bリピートは解除され、通常の演奏に戻ります。



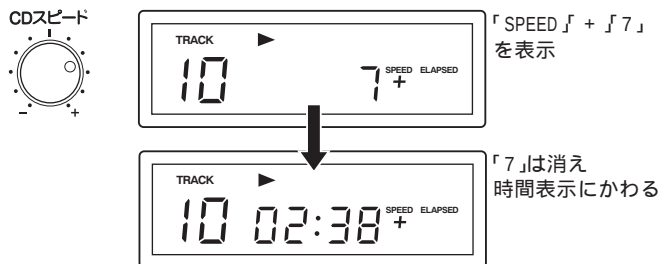
演奏スピードを調節するには(CDスピード調節)

再生中にスピード調節つまみをまわす

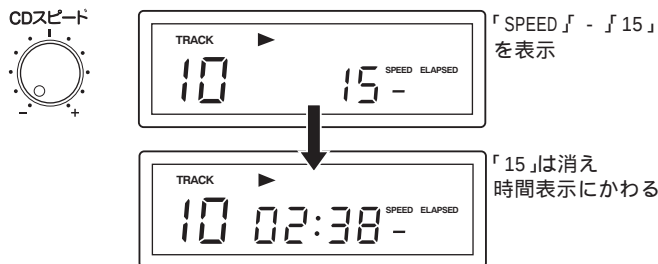
- 再生中、スピード調節つまみをまわし、演奏スピードを調節します。



例1 演奏スピードを速く(約7%)調節



例2 演奏スピードを遅く(約15%)調節



CDスピード調節について

- ・CDの演奏スピードを±15%の範囲で調節します。

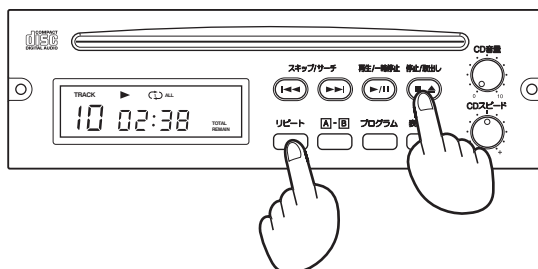
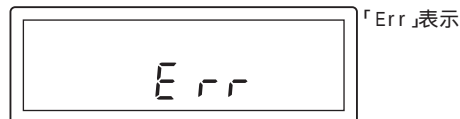
メモ

- ・スピード調節と同時に音程も変化します。

Err(エラー)表示の状態を解除できない場合

停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続ける

- 停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続け、エラー状態を解除してください。



エラー表示(Err)について

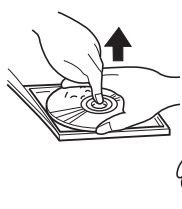
- ・CDプレーヤーになんらかの原因により異常が発生した場合、Err(エラー)が表示され操作する事ができなくなります。

お願い

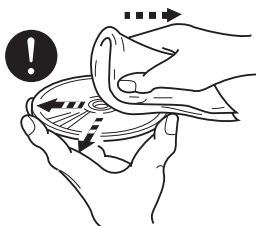
- ・エラーを解除しても、再びErr(エラー)が表示する場合は電源スイッチを切り、販売店などへご連絡ください。

コンパクトディスクの取扱いについて

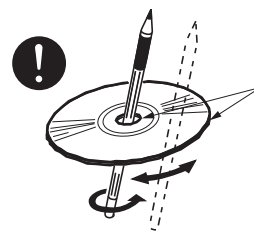
コンパクトディスクの取り扱いかた



- 保護ケースからコンパクトディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、コンパクトディスクの両端を持ってください。また、ディスク面には直接手を触れないようにしてください。

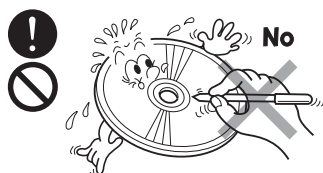


- コンパクトディスクを拭く場合は、乾いた柔らかい布で図のように、中心から外に向かって拭いてください。

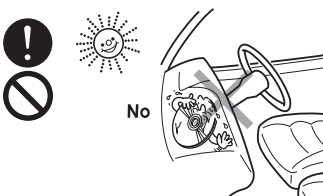


- 新しいディスクには、ディスクの周囲に“バリ”が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。バリのあるディスクは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。

コンパクトディスク使用上の注意



- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどでキズをつけたりしないでください。



- コンパクトディスクは熱に弱いので、直射日光のあたる場所やヒーターなどの近くに置かないでください。



- コンパクトディスクは、きれいなものをご使用ください。もし、汚れている場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは絶対に使用しないでください。



- 大きいキズ、変形、ヒビなどがあるコンパクトディスクは使用しないでください。誤動作や故障の原因となる場合があります。

⚠ 注意

市販のCD保護シートや、スタビライザーなどを装着したディスクは使用しないでください。メカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクを傷つける場合があります。

ご使用になる前に

■ ご確認事項

1. 本機は  表示のあるコンパクトディスク12cm以外のご使用はできません。CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能品質などにより、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

■ 取扱上のご注意

1. 冷えた場所から急激に温度が高くなる場所へ移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が結露して正常な動作をおこなわないことがあります。ディスクが結露しているときは柔らかい布で拭いてください。光学部品が結露しているときは、1時間ほど放置しておくと自然に結露がとれ正常に動作します。
2. 本機を傾けた状態で使用すると正常に動作しないばかりでなくメカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクに傷を付ける場合があります。
3. CD挿入口からのディスクの出し入れは無理におこなわないでください。本機の故障やディスクに傷を付ける恐れがあります。
4. ディスク走行中あるいはディスクをイジェクトしている状態で電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたりした場合、ディスクが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、もう一度電源スイッチを入れてディスクを取り出してください。

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず故障かな？と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

⚠ 警告

- 次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	乾電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
全く動作しない (プロテクト表示灯が点灯)	乾電池または蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	外部スピーカー接続端子が短絡していませんか。	外部スピーカー及びその接続を確認してください。
	本機の増幅部の温度が上昇していませんか。	電源スイッチを切り温度を下げてください。温度が上昇する原因を確認してください。
有線マイクの音声のでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
接続機器の音がおかしい または小さい	接続機器のインピーダンスは合っていますか。	確認してください。
	DC電源で使用の場合乾電池またはニカド蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	接続機器及び本機の予備音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
内蔵スピーカーの音のでない	内蔵スピーカー切換スイッチが「OFF」位置になっていませんか。	確認してください。
外部スピーカーの音のでない	正しく接続されていますか。	確認してください。

ワイヤレスチューナーユニット部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの 音声のでてこない	マイクの電源スイッチは入っていますか。	マイクの電源スイッチを入れてください。
	マイクの電池が入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	マイクとワイヤレスチューナー部のグループ/チャンネル番号の設定は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスマイク音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

CDプレーヤー部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	ディスプレイ 表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	CDプレーヤー部後面のID設定スイッチを変更していませんか。	ID設定スイッチをすべて上側 (OFF) にしてください。
演奏時間が進んでいるが 音声がでこない	CD音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
CDが入らない	本機の中にCDが入っていませんか。	停止/取出しボタンを押してCDを取り出してください。
CDがすぐ出てしまう	CDを裏表逆に入れていませんか。	CDのレーベル面を上にして入れてください。
CDがイジェクトできない	極端な電源変動による誤動作、または機構の誤動作。	販売店などへご相談ください。ドライバーなどで無理に取り出さないでください。
音飛びする、再生途中で停止する	CDが汚れている。	CDを柔らかい布で拭いてください。
	CDに傷やそりがある。	傷やそりの無いCDに交換してください。
音飛びする	CD-R、CD-RWを使用していませんか。	データ書込みの状態、及び使用メディアの条件などにより、正常に再生できない場合があります。正常に再生できるものと交換してください。
CDを認識しない		

著作権法について

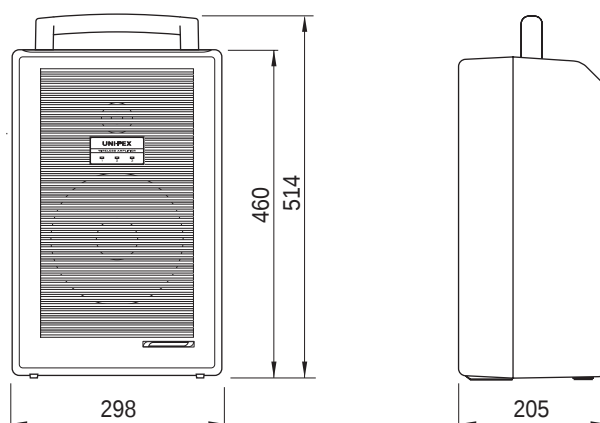
- あなたが本機を利用して著作権の対象となっている著作物を複製、編集などしたものや、他人の講演などを録音したものは、個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 放送コード、CD、その他の録音物や他人の演奏などは、音楽の歌詞・楽曲と同じく著作権法により保護されています。従って、個人使用の範囲を超えて、それらを録音、編集して、販売・レンタル・譲渡したり、営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 詳しい内容や、著作権物に関する許諾のための手続きについては、「日本音楽著作権協会（JASRAC）」の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

定 格

品 番	WA-862CDA
使 用 電 源	AC100V 50/60Hz、単一乾電池(R20P/LR20)×8、専用ニカド蓄電池
定 格 消 費 電 力	42W (電気用品安全法による測定方法に基づく)
消 費 電 流	AC0.61A (20W出力時)
	DC1.4A (8W出力時)
定 格 出 力	AC時：20W、 DC時：8W
ひ ず み 率	5% (1kHz 定格出力時)
周 波 数 特 性	70Hz ~ 12kHz (偏差 ± 3dB)
音 質 調 節	4kHzに 於いて +5dB / - 10dB (1kHz基準) 調節器付
入 力 感 度 及 び イ ン ピ ー ダ ン ス	マイク : 約 - 56dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付 予 備 : 約 - 22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 チューナー部入力 : 約 - 26dBV 10kΩ 不平衡
信 号 対 雑 音 比	70dB以上
外部接続スピーカー	8Ω ~ 16Ω 許容入力 20W以上
ラ イ ン 出 力	0dBV 1kΩ 不平衡
ア ン テ ナ 方 式	ダイポールアンテナ×2 (内蔵)
動 作 表 示	電源 : 発光ダイオード(緑) 減電圧時(赤) 充電 : 発光ダイオード(緑) プロテクト表示 : 発光ダイオード(赤)
●チューナー部	アンテナ受信表示 : 待機時(赤) 受信時(緑) 設定外時(赤 / 点滅)
受 信 周 波 数	806.125MHz ~ 809.750MHz(125kHz間隔30波)
出荷時設定受信周波数 (グループ/チャンネル番号)	806.125MHz (B11)
受 信 方 式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	20dBμV
●CDプレーヤー部	
適 合 C D	コンパクトディスク 12cm
周 波 数 特 性	20Hz ~ 20kHz (偏差 ± 1dB)
ス ピ ー ド 可 変 範 囲	± 15%
付 帯 機 能	シングルリピート・オールリピート ・A-Bリピート・プログラム再生
表 示	動作表示 (液晶表示)
使 用 温 度 範 囲	0 ~ + 40
外 装	ケース(ABS樹脂) : マンセルN7.5 近似色 ライトグレー、保護カバー(PC樹脂) : ライトブルー系クリアー
寸 法	幅298mm 奥行205mm 高さ460mm
質 量	10.1 kg (乾電池、蓄電池を除く)
付 属 品	取扱説明書 保証書付 1、電池ケース 1、マイク収納ケース 1、設定用ドライバー 1、チャンネル表示ラベル 1、外部機器接続用ケーブル 1
適 合 品	ニカド蓄電池(WBT-2000)、ワイヤレスチューナーユニット(DU-850A、DU-850) SDレコーダーユニット(SDU-200)

外觀寸法図

(単位mm)



製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社